

玉手山学園広報

No.54 春号
2007年5月25日発行
総合学園広報誌

高めよ教育力!

磨け伸ばせ”学生力“!

すべては情熱から

二十一世紀の未来を拓く 人材を育てる



理事長 江端 源 治

六十五回目の春、念願の「博士学位」授与卒業そして入学に胸が熱くなる

学園は原川の水面に映える美しい桜とともに創立以来六十五回目の春を迎えました。わずかに二〇〇名の女子生徒からスタートした学園が、今や五つの校園に園児から大学生まで五、〇〇〇名、支える教職員三〇〇名を擁する総合学園にまで発展し、この三月には大学開設十年にして念願の「博士学位」を二名の方に授与できました。この間、幾多の試練・困難を克服し学園の生成発展に努力し続けてくださった先人、そして学園の”今とこれから“を力強く支えてくださる学園教職員のご尽力・情熱に心からなる感謝と敬意を表します。毎年三月、学園を巣立つ彼・彼女らには「いつまでも誇れる母校」であり続けること、そして四月、胸躍らせて学園に集う彼・彼女たちには「期待にしっかりと応える

情熱をもって総力結集

「学園運営基本方針」と各校園「運営目標」の確かな共有と実践を

今年二〇〇七年は日本の大学全入時代元年でもあります。情け容赦なく教育力の真価が問われる大競争時代は”望むところ“、教育力向上・発揮の絶好機です。わが学園・自分の教育力の格好の見せ場と捉え、真つ向から挑み続けることこそ真の教育人・私学人の姿であります。

今年度「学園運営基本方針」を定め、それにもとづき各校園において実現すべき具体的な「運営目標」を策定しました。特別な秘策・特効薬を望んでいるわけではなく、教育人・私学人としての基本・当り前のことを掲げています。全教職員で「運営目標」をしつかりと共有、役割を分担し自分の為すべきことを実践して実践してください。この基本・当り前のことの遂行に”どれだけ本気で情熱をもって“総力を結集し得るかに学園の命運がかかっています。

学生・生徒・園児たちは「情熱のある先生(職員)」と「ない先生(職員)」のどちらに教えて(接して)もらいたいのか? 答えは言うまでもありません。去年と同じ…では何も変わりません。

以下に平成十九年度「学園運営基本方針」を示します。各校園の「運営目標」は各自でぜひ繰り返しご精読ください。

○常に魅力ある学園、社会に必要な理解・共有を推進する

○学園の使命、職員の責務の確かな理解・共有を推進する

各校園の教育目的・目標の再確認構築と共有そして実践

一、教育力の一層の向上を図る
人材育成に重点を置く。教育職員・事務職員の資質能力向上

を目指し、組織的かつ具体的な施策を策定、実践していく。
”教職員が変われば学生が変わる“
”教育に情熱を失った教職員に接しられる学生は不幸である“

- 二、学生・生徒・園児の満足度を的確に把握し、向上を目指す
- 三、発展的継続、改革に依る強く健全な財政基盤の堅持・確立
- 四、学校愛、母校愛を醸成する
- 五、教育・学園生活環境、設備等の充実を図る

新体育館竣工式典を終えて学園教職員への思いは「ここまで伝わるか」

去る四月二十五日、学園総合体育館の竣工式典を盛会に終えることができました。多くのお客様に好印象をもって頂けたものと自負しています。スタッフの皆さんにご苦労をかけ大いに気遣わせました。竣工式典の趣旨・目的を改めて申し述べます。第一に新体育館活発利用による教育活性化、学園教職員・在校生の愛校心醸成はもちろんですが、社会に向けての学園教育力の発信(学園力PR)、そして最後に学園教職員の研修です。皆さんの感謝の気持ちと誠意が、わざわざ当学園のためにお越しく、くださったお客様に「伝わった」はず。 「来てよかった」と思ってもらえるには自分は何をすべきか、何ができるか、どう接すればいいのか? (笑顔、丁寧、大切に) 一生懸命に考えて工夫を凝らし色々なアイデアを出してくださいました。まさに建学の精神「感恩」の実践の場そのものでした。そんな皆さんを誇りに思い心から感謝申し上げます。

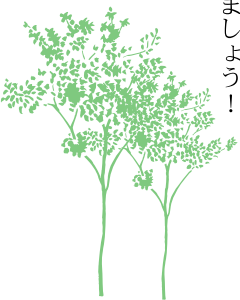
学生・生徒諸君にもお礼を言いたいと思います。「和太鼓、吹奏楽、手話、決意表明など君たちはとても素敵でした。会場全体に君たちのエネルギーが溢れ、来場者に清々しさと元気を与えてくれました。感激しました、ありがとうございます!」

教員新人事制度導入・試行 敬意を表し遠慮は無用

昨年の事務職員に引き続き、今年度は幼稚園から大学まで全教員対象の新人事(評価)制度も導入、試行が始まりました。この新人事制度のことについては平成十七年度玉手山学園広報春号から毎回、紹介してきましたが改めて申し上げます。新人事制度導入の趣旨・目的は学園教職員の資質・能力の向上、学園の教育力向上そして学生の満足度向上です。学生の満足度向上は教育人・私学人である我々学園教職員自身の満足度向上にもつながってまいります。真に資質・能力向上を願うならばこそ教職員どうしが相互に敬意を表しながら、しかし遠慮などはまったく無用です。ぜひ「自分のことを評価してほしい!」という積極的な姿勢で臨んでいただき、本制度が形式的な邪魔者・お荷物に成り下がらぬよう協同して頼れる実効ある制度に磨き上げてまいります。

清々しいあいさつから学園の一日が始まる

さあ新年度です。元気にスタート、清々しいあいさつから一日を始めましょう!



進路状況

大学・大学院

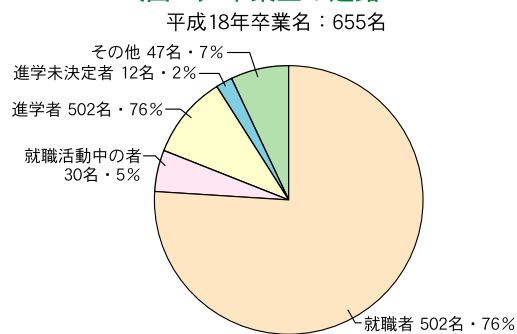
平成十八年度卒業生の進路状況について報告いたします。

十八年度は、既存の社会福祉学科に加え、臨床心理学科、健康科学科、福祉栄養学科と、新学科の一期生が卒業を迎える年度となりました。新学科にとりましては、初めての卒業生でしたが、学生、保護者、教職員が一体となり、就職・進路支援を進めた結果、各学科とも高い就職率を達成することができました。

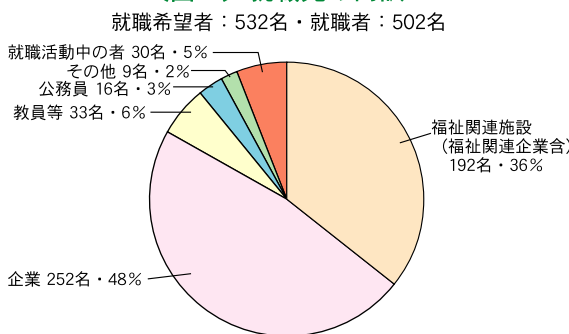
社会福祉学科におきましては、就職希望者二八八名に対し二六七名が就職（就職率九三％）、臨床心理学科では、就職希望者七五名に対し六九名が就職（同九二％）、健康科学科は就職希望者九一名中八九名が就職（同九八％）、福祉栄養学科では、就職希望者七八名中七七名が就職（同九九％）いたしました。

次に国家試験の合格者ですが、社会福祉士一二四名、精神保健福祉士十二名となりました。社会福祉士の合格者数につきましては、全国一八二大学中、第七位となりました。また教員採用試験（養護教諭）は、五名の合格となりました。平成十九年度も、教育後援会の協力のもと、合格者アツプを目指したいと思っております。

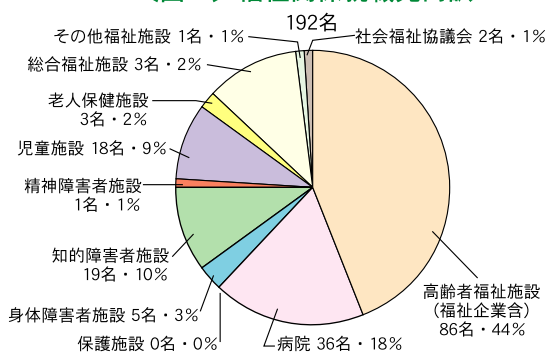
【図Ⅰ】卒業生の進路



【図Ⅱ】就職先の内訳



【図Ⅲ】福祉関係就職先内訳



平成18年度 進路状況 (平成19年4月23日現在)

	全 体	社会福祉学科	臨床心理学科	健康科学科	福祉栄養学科
卒業予定者	655	327	135	112	81
就職希望者	532	288	75	91	78
就職内定者	502	267	69	89	77
内 定 率	94.4%	92.7%	92.0%	97.8%	98.7%
進学希望者	76	15	49	9	3
進学決定者	64	10	42	9	3
進 学 率	84.2%	66.7%	85.7%	100.0%	100.0%
そ の 他	47	24	11	12	0

短期大学

平成十九年三月に卒業した学生の進路についてご報告します。本年の卒業生は二二三名、うち就職したものが二〇四名、四月二十六日までの判明分、進学したものが

が十四名でした。(歯科衛生士コースは三年制の歯科衛生士学科となり、本年の卒業生はありません) 就職内定率(就職希望者に対する就職決定者の割合)は九九%(前年九七%)、就職率(卒業生総数に対する就職決定者の割合)は八八%(前年九一%)と高水準を維持

しました。厚生労働省が発表した平成十七年度大学等卒業生就職状況調査によりますと、短大就職内定率は九一%、就職率は七〇%であり、大阪私立短大協会「就職問題研究会」の資料によりますと平成十八年度加盟校三三校の就職内定率は九一%、就職率は六二%でした。以上の数字から本年も、就職率において本学の優位はゆるぎなく、大阪府下でも上位を維持しています。

各学科別の就職内定率と就職率とは、それぞれ保育科が九九%、八六%、養護保健コースが一〇〇%、八六%、医療秘書コースが一〇〇%、九五%と、どの学科も二ノットの割合が低くなっています。(表1参照)

専門職への就職率(専門職就職者/就職者)も高く、保育科で九〇%、養護保健コースで七九%、医療秘書コースでは七七%でした。また進学については、十四名中十名が大学へ、又十名全員が関西福祉科学大学へ進んでいます。

一方、本学への求人についてはですが、総数一二二五件は過去五年間で最高でした。保育園・幼稚園求人(七〇二件)は、依然保育士・幼稚園教諭の需要が高いことを表しており、昨年度より大幅に増加しています。厳しい経営環境にある病院求人(八二件)は、三年連続の増加となりました。(表2参照)

年度を通して教員の力強い指導と職員の支援の下、学生もよく健闘しました。就職率と専門職比率の高さは本学の特長であり、今後とも教職員一体となってその維持・向上に努めてまいります。

表2

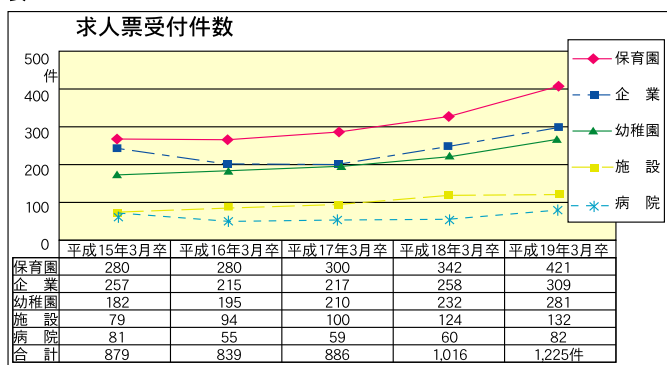
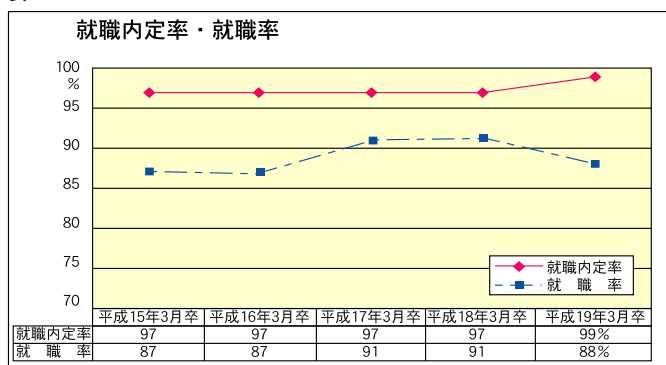


表1



高等学校

平成十八年度の進路結果として、進学面において四年制大学へは七一名進学し、その率は全体の三五％です。短期大学へは四八名進学し、その率は二三・六％です。専門学校へは五八名進学し、その率は二八・六％です。進学率は四年制大学、短期大学、専門学校とも前年からほぼ横ばいとなりました。しかし、現役進学率は年々上昇しており、平成十八年度は八七・二％に達しました。さらに、大阪市立大学、関西大学など上位校への挑戦受験でも一定の成果が出ました。なお、学園内併設校への進学は、四年制大学へは八・四％（十七名）、短期大学へは十三・八％（二十八名）、専門学校へは六・九％（十四名）進学しています。

就職面においては、公開求人への移行が進み、一定の学力が必要とされる状況に変化はありませんでした。求職者数約十八名に対して、求人者数約二七九社、就職内定者十四名となりました。就職内定者の内訳は指定校求人五名、府内公開求人一名、縁故三名、家業四名、公務員一名です。

本校は特別進学Ⅰコース、特別進学Ⅱコース、総合進学Ⅲコースの三コースを導入して二年目を迎えました。今までの進路実績、特に難関大学の合格実績をさらに高めるために高等学校は一九となり、質の高い学習指導並びに進路指導を心がけています。

本校は、四年制大学、短期大学、専門学校という併設校を備えた総合学園の一員として、今までの以上に併設校と強い連携を築いていきたいと考えています。同時に、中学校や塾や受験生から高い評価を受け、社会的に信頼される高等学校を目指します。そのために、総合学園としての特徴を大いに生かしつつ、社会的に評価の高い大学に入学者を増やすために、生徒一人ひとりの意欲や意識の高まりを引き出す指導、個々の生徒に適したきめ細かい指導を徹底していきたいと考えています。

専門学校

平成十八年度の卒業生は一一七名。就職希望者の就職率は九九％。進学は関西福祉科学大学（社会福祉学科）編入が七名、診療情報管理専攻科へ五名でした。保育所一名、自動車ディーラー一名の就職者以外は医療福祉関連施設に就職いたしました。

国家試験結果報告
理学療法学科は受験生全員合格。作業療法学科は残念ながら一名の不合格者を出しました。



有文館と学園2号館

入学状況

大学・大学院

【入学者数は七五六名】

今年度は七五六名の新生を迎えました。（男性二七〇名、女性四八六名）。学部一年生六三八名、編入生九一名、大学院生二七名です。志願者総数は、編入学・大学院を含みますと二四八二名。昨年度の三二〇一名に対し、二二・四％の減少となりました。学科別では、社会福祉学科昨年比二〇・一％の減少、臨床心理学二七・七％減少、健康科学科二五・四％減少、福祉栄養学科二八・一％減少となっており、編入学入試の志願者数は昨年度一二二名に対し、今

年度は一二六名と三・三％増加しました。大学院入試では心理臨床学専攻（修士課程）は昨年度九五名の志願に対し七九名で一六・八％減となりました。臨床福祉学専攻（博士前期課程）につきましては、昨年度に続き定員の確保が出来ず苦しい状況となりました。

大学全入時代を迎え、ますます厳しい状況になっておりますが、この状況を打破する為に、広報活動内容を精査・分析し、種々の対策を講じて目標達成にむけて邁進していく所存です。学園の皆様方のご支援ご協力をお願い申し上げます。

短期大学

【入学者数は三〇三名】

桜満開の入学式に、今年も三〇三名の新生をお迎えしました。内訳は、保育科一〇二名、保健科養護・保健コース五三名、医療秘書コース四三名の保健科全体で九六名、そして歯科衛生学科に一〇五名です。

当然のことながら、「良質の教育サービスを提供する」ことにより本学園学生たちの「満足度の更なる向上」を追求する責務を再確認せずにはおられません。

（志願者数について）
平成十九年度入試の志願者総数は三七七名で、前年に比べて一四九名（二八％）の大幅な減でした。まさに全入でもなお足りぬという危機的状況に陥ってしまいました。（二つの新たな入試）

高等学校

【入学者数は一六六名】

今年度の入試の状況は次のとおりである。志願者数一一五六名、入学者数は特進Ⅰコース十四名、特進Ⅱコース一一三名、総合進学Ⅰコース三九名である。

高校では昨年度より、「新生・関西福祉科学大学高等学校」を旗印に教育内容を一新し、併設大学の入学を保障する特別進学Ⅰコースを立ち上げ、あわせて従来からある特別進学Ⅱコース、普通Ⅲコースをそれぞれ特別進学Ⅱコース、総合進学Ⅰコースと改称し、それぞれのコース毎に掲げた目標に向かって邁進しております。

今年度も引き続き、関西福祉科学大学高等学校の教育力を高め、学習指導のさらなる充実を図っております。具体的には、各コースで学習時間を拡大（特別進学Ⅰコースでは公立高校の約一・五倍）、そのカリキュラム内容をより精選し、「一層充実させました。」「学力診断テスト」を導入することにより、学習、および進路指導に活用目標達成に向け、精力的に取り組んでおります。また総合進学Ⅰ

平成18年度 進路先一覧

学科名	性別	特養	病院	老健	診療所	企業	知的	専攻科	福祉大	保育所	未定	総計
医療ビジネス学科	男女	1	4	1	4	1	4	1	1	1	1	315
介護福祉学科	男女	3	12	3	4	1	2	3	3			1122
理学療法学科	男女	18	12	1	1							2012
作業療法学科	男女	12	10	1	3	1						1413
診療情報管理専攻科	男女					1						1
介護福祉専攻科	男女	1								1		2
総計		16	57	13	6	4	3	5	7	1	1	113

① 「AO入試」を本格導入します。六月からのオープンキャンパスに並行して実施し、志の高い、強い目的意識を持った学生募集を行います。

② 「同窓生子女特別入試」を始めます。本学をよくご理解いた、たいしている同窓生の皆さまの子女を受け入れるものです。

今年度、そして今後とも総力を結集し最善を尽くしての学生募集活動並びに入試実施体制に取り組みと同時に、学園関係者の厚いご支援ご協力を改めてよりしくお願い申し上げます。

スでは、保育系・福祉系のプロの講義が受けられる教養講座にも力を入れております。

総合学園として、併設大学・短大・専門学校との更なる連携強化を図るなど、学園あげて懸命に取り組んでおりますので今後ともご支援をお願い申し上げます。

専門学校

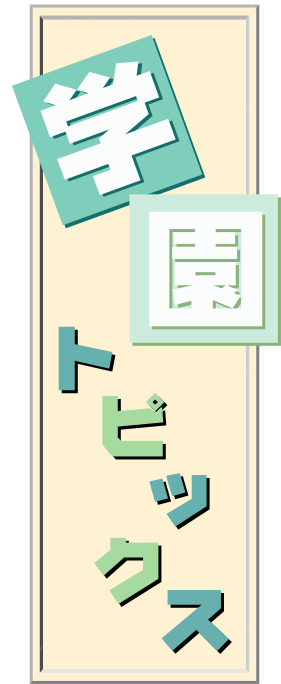
〔入学者数は一一五名〕

今年度、専門学校は一一五名の新生を迎えました。例年のごとく新生の構成は多様性に富んでおり、年齢はこの三月に高等学校を卒業したばかりの十八歳から最年長の三十五歳まで、また学歴も高等学校卒業、大学卒業、大学院修了と多岐に亘たり、さらには自身が保護者であるケースも複数見られるなど大学・短期大学とは大きく違った雰囲気を出してあります。そうしたモザイクの様な外見上の構成とは相反して「資格取得」「職業直結」という専門学校の特質から、すべての新生が強い目的意識をもって入学しているのが大きな特長となっております。ところで、平成十九年度入試の志願者数は前年度に比べ五〇%以上の大きな減少となりました。受験生の医療・福祉離れの影響が顕著に現れ、非常に不本意な結果となりました。特に昨年まで高い競争率となっていたリハビリテーション分野の理学療法学科・作業療法学科が思いがけない大幅減少となりました。

こうした状況は、今年はいり一層厳しいものになると考えられますが、学園内各校との連携、入試期日の早期化、入試科目数の軽減等

各種の対策を講じて一名でも多くの受験生を確保したいと考えております。

りますので、学園関係者の皆様のご協力をお願いいたします。



学園総合体育館「D.O.夢」竣工式典挙行

法人本部 施設部 田堀 富造

学園総合体育館の竣工式典が平成十九年四月二十五日(水)十一時から挙行されました。お客様二〇〇名、学生、生徒、教職員三〇〇名の計五〇〇名が出席しました。式典開始に先立ち、当日は平成十七年のJR事故二周年にあたり、あの事故で亡くなられた井上美里さん、折尾春菜さんのご冥福を祈り、出席者全員で黙祷をささげました。

式典は関西女子短期大学生による勇壮な和太鼓の演奏に始まり、理事長式辞、来賓祝辞(相原市長(三浦誠教育長代読)と大阪私立中高連野田賢治会長)と学生代表の決意表明、施工業者への感謝状贈呈、体育館名称命名者への表彰とスミーズに進行し、最後に関西福祉科学大学吹奏楽サークルの演奏があり、手作りの真心こもった式典が、和やかなうちに無事終了しました。また、式典全体を通じ関西

福祉科学大学手話サークルによる手話がおこなわれ、本学の特徴を出した式典となりました。当日は、あいにくの悪天候となりましたが、式典終了時には雨も上がり、薄日がさしてきました。悪天候にもかかわらずバス送迎、来賓の車誘導など屋外でご協力いただいた方々並びに受付、会場案内などご協力いただいたスタッフの皆様方には、紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

来賓の方からいただきましたお礼のお便りを紹介します。

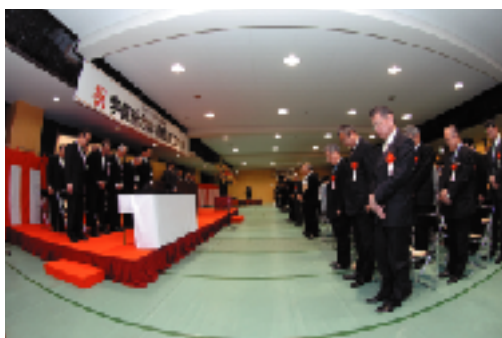
「職員・生徒さんのきめ細やかなおもてなしに感謝いたします。校内はもとより道路・駐車場の案内すべてにおいてころよく案内していただきありがとうございます」とあります。スタッフ一同感謝無量の思いでいっぱいです。



理事長式辞 (手話サークルによる手話)



学生代表の決意表明



出席者全員による黙祷



体育館名称命名者の表彰

学生代表の決意表明にもありましたように、当体育館が玉手山学園に關係するすべての学生・生徒・園児・教職員の若いパワーと躍動の源となつて十二分に活用されることを期待しています。

最後に、「D.O.夢」の宣伝をしていきます。

一階のトレーニング室は、当体育

館の目玉ですが、その中でも別添写真の体脂肪計は優れたものです。部位別(手、足、腹部)体脂肪を量(kg)及び率(%)で表示し、肥満度や筋肉量、基礎代謝量なども数値で表示します。利用する学生は、使用前後に体脂肪を計測し一喜一憂しています。教職員の皆様も是非一度ご利用下さい。



関西女子短大生による和太鼓演奏



関西福祉科学大学吹奏楽サークルによる演奏

博士學位取得者誕生

社会福祉学専攻 武田 健

関西福祉科学大学の大学院に臨床福祉学専攻の博士後期課程が誕生してから四年が経ちました。そして、去る三月の卒業式で二人の方に博士の学位を差し上げることができたことは、私たちの大学の学問的水準の高さを世に示めたこととして、大いに喜んでおります。とりわけ、博士取得者第一号となった九九綾子さん(現社会福祉学部講師)は、本学の第一回の入学者です。入学後、教職員学生ならびに卒業生の喜びもまたひとしおです。九九さんは「高齢者の自己効力感」について調査をなさ

ました。お年寄りが高齢大学のよくなささまざまな社会活動に参加することによって、いつまでも「やれるんだ」という気持ちを支わないうで、より活発でいられることを実証なさいました。安井理夫さんは同朋大学の先生をしながら、本学の太田義弘教授のもとに通い、「エコシステム構想における支援技術」と題する、理論研究と事例研究を軸にした大変立派な論文を書き上げられました。この博士論文が一冊の本として、出版される日が近いことを大いに期待しています。

平成十八年度 大学・短大の

学術研究褒賞受賞者が決定しました

大学事務局総務部

本学の学術研究褒賞は優れた学術論文および著書あるいは社会的貢献を通じて本学の社会的評価や認知度の向上に寄与された専任教員の方々を対象に、平成十八年二月に「大学・短大褒賞規程」として制度化されました。今回はその初年度の観点から平成十七年度分にも考慮し、申請対象期間を平成十七年四月一日から平成十八年九月三十日までとして申請を受付、審査委員会において慎重に審議しました結果、下記の四名の方に決定しました。本年四月十一日(水)に岩瀬副学長より表彰され、副賞が授与されました。

《表彰された専任教員》(敬称略) 職位は平成十九年四月一日現在)

・吉田 初恵(社会福祉学部社会学部 准教授)

論文「介護保険制度改革に向けての論点」が公益法人研究学会において、平成十八年九月十日「学術奨励賞」を受賞。

・三戸 秀樹(健康福祉学部健康科学科 教授)

交通事故防止のための安全教育に関する社会貢献された功績により、平成十八年一月十八日に開催された第四六回交通安全国民運動中央大会において、警察庁長官より、交通栄誉賞緑十字銀賞を受賞。

・山本 真紀(健康福祉学部福祉学 准教授)

奇稿論文(共同)「High-resolution physical mapping of the secain-I locus of rye on extended DNA fibers」が世界の優れた最新植物細胞遺伝学研究の集大成である書籍「Plant Cytogenetics」(平成十七年四月発行)に掲載。

・坂口 幸弘(健康福祉学部健康科学科 准教授)

論文「遺族のリスク評価法の開発」死別後の不適応を予測する因子の探索」が日本死の臨床研究会において、平成十七年十一月十二日「奨励賞」を受賞。

保育士養成課程の設置について

社会福祉学科長 杉本 敏夫

数年かけて取り組んできました保育士養成課程が本年四月に社会福祉学科内に開設されました。学生が実際に保育を学ぶのは、来年の四月からですが、本年度社会福祉学科入学生から保育士課程の選択ができるようになりました。

本学の保育士養成課程の特徴は社会福祉士の受験資格取得の上保育士資格を得ることです。近年、虐待等子どもと子育てに関する諸問題はますます複雑で、解決が困難になってきています。また、児童福祉法では保育士に求められるものとして、児童の保育にプラスして保護者に対する保育に関する指導という職務も付け加えられました。

このような親に対する指導業務に携わる上で、社会福祉士の勉強をし、援助技術を身につけていることが非常に役に立つと思われれます。また、児童関係に就職しようとしている学生にとっては、社会福祉士にプラスして保育士資格を持つておくことは非常に有利な条件となります。

本年度は来年度より保育士養成課程を実際に運営するための準備期間となります。時間割の構成、必要な設備や教材の準備を早急に行いたいと考えています。ご協力のほど、よろしくお願いいたします。



Pre Learning (合格者の集い) 開催

大学入試広報部

第七回 Pre Learningを平成十八年十二月に実施しました。早期合格者(指定校、推薦、AO入試)を対象に実施するPre Learningも今年で七回目となりました。今年度からは新たに保護者対象のプログラムを設けました。その結果、例年に比べて多くの保護者の方にもご参加頂き、盛況のうちを終えることができました。総出席者数一九二名(昨年一三〇

名)、内受験生一三七名(同一二二名)、保護者五五名(同八名)と前年に比べ四七・七%増加しました。Pre Learningに参加頂いた受験生の方は、入学意志を持たれている方が多いと思われまます。今後さらに本学の教育内容やサポート体制について少しでも詳しくお知らせし、さらに入学意欲を高めて頂けるプログラムにしたいと考えております。

大学開学十周年記念行事(ついで)

十周年記念行事企画委員会

大学開学以来、着実な歩みの中で本学は基盤を整え十周年を迎えることができましたが、その記念すべき年はおりしも大学全入時代の幕開けの時でもあります。

教職員 および 学生の皆さんの参画の呼びかけますので、よろしくご協力願います。



大学開学10周年の横断幕

十周年の記念講演会の開催、記念論文集の発刊、大学歌の制作、竣工したばかりの学園総合体育館でのスポーツ大会、大学祭にあわせたホームカミングデーの企画等々、企画委員会では現在、企画案を十項目ほどに絞り込んでおり、今後実現の可能性を確認しながら最大限の効果を発揮すべく検討を進めております。



学園本館に掲示した垂れ幕

人権講演会開催

社会福祉学科 森 明彦

二〇〇七年正月十七日、午後六時より学園二号館五〇五教室において立命館大学法科大学院教授二宮周平氏を講師に招き、人権講演会が開催された。人権擁護委員会主催の催しとしては、昨年に引き続き第二回目となる。「ジェンダー」と法と戸籍制度における個人の尊重と男女の関係性」という演題で、約一時間にわたって二一九名の聴衆の前で、個人認証制度とし

ての戸籍制度の特殊制とそこから生じる問題点、および改革の方向性についてわかりやすく熱のこもった講演を戴いた。日常的にげなく当たり前のこととしてさほど意識していかかった戸籍制度に、人権に関する重要かつ複雑な問題が含まれていることに、多くの参加者が感銘を受けたことは、当日のアンケートにも窺える。二宮氏の講演後、志水彰大学・短大校長、

平成十八年度 特別進学Iコース冬期学習合宿

高校 特別進学Iコース主任 安田 伸一

高校では平成十八年十二月二十五日〜二十七日の三日間、立教寮と学園本館を使用し、特別進学コースIの冬期学習合宿を行った。合宿の目的は学習への集中力、持続力の向上であり、九十分授業と六十分の自学を組み合わせ、国語五回、英語五回、自学八回を実施した。

朝七時四十分より授業・自学と交互に行い、最終授業を二十一時〇〇分に終了。生徒達は九十分授業に集中力を欠くことなく積極的に参加した。自学時間でも、直前に行った授業の復習が直ぐにできるメリットから熱心に学習に励んだ。この学習合宿を通し、更に学習への集中力、持続力がついたと思われる。また集団生活を通し、協調して物事に取り組むことを学び、生徒一人ひとりが大いに成長していった。生徒の可能性を実感



冬期学習合宿で勉強に励む生徒達

篠置昭男大学名誉学長との質疑応答がなされ、講演会は終了した。終了後、幾人かの学生が二宮氏に長時間質問していたことも印象に残る出来事であった。

平成十八年度 卒業記念 石碑について

高校第三学年主任 上田 秀一 田中 照章

今春、第五九期卒業生により卒業記念品として本学園の建学の精神「感恩」と高等学校の校訓「明朗・誠実・友愛」を刻んだ石碑が寄贈されました。高等学校の正面玄関ロビー前(向かって左)に設置され、二月二十八日の卒業式後、



正面玄関前に設置された卒業記念碑

保護者や生徒に披露されました。私たちは、生きていくうえで多くの人に支えられ、天地万物から様々な恩恵を受けて人生を歩んでいます。本学園の建学の精神「感恩」は、こうした有形、無形のあらゆる恩恵に感謝して、それに報いることを教育理念としています。また、校訓では文字通り「明朗・誠実・友愛」を謳っています。今日

の出会いに感謝して、これからの新しい出会いに胸を膨らませ、「感恩」の精神を抱きながら歩んできてほしい。そんな卒業生の想いが石碑には刻まれています。これからも生徒をはじめ全教職員がこの精神を脈脈と受け継ぎ、その誰もが豊かな人生を歩んでいくことを願っています。

幼稚園に「ひよこ組」設置

幼稚園 大西英子

大阪府の三才児就園促進事業の一環を担い、平成十九年度より満三才児保育（ひよこ組）を設置することとなりました。入園条件は、満三才に達した幼児を保育対象とし、五月より随時受け入れていきます。

その先がけとし、四月二十四日に満三才児対象（在園児の兄弟、姉妹関係）の親子体験入園を実施致しましたところ、定員二十組枠になんと倍の四十組の親子さんが参加されました。

ピアノに合わせて、親子で体を動かしたり、歌ったり、また手作りのこいのぼりを泳がせた個性豊かな五月のカレンダー作りをしたりと、盛りだくさんの体験に満足そうなお子様と親御さんでした。特にお子様よりも、嬉しそうにはしゃぐお母様のお顔と声が印象的な一日でした。

この親子体験入園は大変好評でしたので、今後は、在園児以外にも対象を広げ、毎月、就園前の親子の体験入園「幼稚園にあそびにおいで！」を続けて行く予定です。子育て支援の一環を担い、地域の

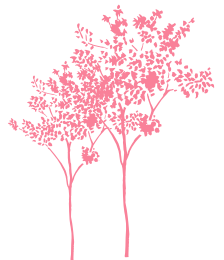


親子体験入園の様子

皆様にもおおいに喜ばれることでしょう。また将来的には、少子化現象での園児減少の対策の一環となるものと自負しております。

安堂駅掲示板の活用お願い

法人本部 施設部
田堀富造



本年一月から三月にかけて近鉄安堂駅屋内自由通路の掲示板を柏原市より借用し、学園の広報活動に利用しています。

添付写真は、本年一月に掲示中の状況です。

近隣在住のご父兄、主婦層、高齢者層などへ学園の活動状況をお知らせしたり、公開講座、リビエールホールでの演奏会などのPRができますので是非ご利用下さい。今年度も継続して借用しますので、広く有効活用されることを期待しています。



近鉄安堂駅の掲示板

福祉会館建設に協力

法人本部

このたび学園が所在する地元町会（旭ヶ丘三丁目第一区）が、老人集会所を建設することとなり、地元からの要請により学園は建設費の一部を協力いたしました。

老人集会所の建設は当町会の長年の夢であり、このたび柏原市の助成を得てやっと実現したものです。学園としても地域社会との共生、また地域社会への貢献の一環として喜んで賛同いたしました。

去る三月二十四日（土）に落成式が盛大に行われ、町会より学園に対し深甚なる感謝の意を表され、感謝状が贈られました。学園では今後とも地域との交流を深めていく所存です。



町会より感謝状をいただく

永年勤続表彰

法人本部 総務部

平成十八年度の永年勤続表彰式が去る一月十二日に理事長室にておこなわれました。当日は理事長より一人々に感謝状と金一封が渡され、ねぎらいと励ましの言葉がありました。

表彰された方は次のとおりです。

○ 敬称略

○ 勤続二十五年表彰

・ 森岡 稔（高 校）

・ 山口 良一（本 部）

○ 勤続十五年表彰

・ 日暮 雅男（大 学）

・ 山崎 英幸（短 大）

・ 渡邊由美子（短 大）

・ 嘉悦 由貴（大学事務局）

・ 小林 孝博（高 校）

・ 西口 友子（高 校）

・ 西脇 和子（高 校）
・ 樋野 展子（高 校）
・ 岡田真由美（幼稚園）
・ 橋本あつ子（専門学校）

